

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492700018
法人名	(株)ジェイバック
事業所名	もも太郎さん(大郷)
所在地	宮城県黒川郡大郷町中村字原町10-5
自己評価作成日	平成23年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台3階
訪問調査日	平成23年6月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内中央の広いリビングスペースが、入居者様の語り合いや交流のスペースになっており、温かい雰囲気の中で、笑顔や笑い声の絶えない空間になっています。一日の大半を共同スペースで過ごす方が殆どの為、常に楽しい雰囲気作り力を入れています。また、プライバシーが厳守される居室には、トイレ・浴室・クローゼット・テレビ等が標準装備されています。気兼ねなくトイレが使えたり、夜間のトイレ誘導にも活用する事が出来る為、排泄の自立支援にも役立っています。また、常にご利用者様のご要望に耳を傾け、ご本人の意思に沿えます様、職員が一丸となって支援しています。薬に頼り過ぎない代替ケアを実践し、色々な方々の回復を拝見して参りました。お一人お一人を支える一番近い存在でありませう様、日々邁進出来る施設であり続けたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成21年7月1日開設。高齢化と過疎化が進む大郷町に町民や行政も注目する初めてのグループホームである。施設は敷地の都合からか、L字型の2階建。居室は全てバストイレを配備し我が家をイメージしプライバシーを意識した造りである。建物の中央に配置されリビングには利用者が思い思いに寛ぎ和やかに過ごしている。理念で掲げている「自由に生きる！家族の絆！」が映し出されている印象であった。
管理者がこの5月に着任し、施設運営の向上とサービスの質の向上を課題に、地域との関係作りや利用者職員が笑顔で生活できる取り組みを進めている。今後更なる改善を進め、地域福祉の拠点的役割を担う施設になることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果（事業所名 もも太郎さん〔大郷〕「ユニット名 1階」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体で共通の理念を掲げ、ミーティング等で常に確認し合い、意識付けをしながら実践を行っている。しかし、事業所単独の理念を掲げていない為、今年度は実施したい。	法人理念として「あなたの笑顔は私の鏡」が施設内に掲げられている。ユニット毎の理念は職員会議で検討が進められ、利用者と一緒に笑って暮らし、一人ひとり利用者の尊厳を大切にすることをキーワードに検討されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域と日常的にあまり交流を出来なかった為、今年度は実施したい。	町主催の敬老会に参加し、地域の方々との交流がされている。地域との関係作りは途上であることから、窓やカーテンを開放し、地域の方々への声かけを積極的に行っている。また、運営推進会議や2周年記念行事への参加を呼びかけ、交流促進に取りかかっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方へ援助する機会があったが、今後は運営推進会議や地域行事を通じて、地域の方々へ活かしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度は感染症の流行もあり、定期的な会議の実施が出来ず、意見をあまり活かせなかったため、今年度は実施したい。	今年度は6回開催を予定している。第1回は6月25日、区長、民生委員、第三者委員、行政、家族に参加を依頼している。検討テーマは、地域行事やクリーン活動への参加、ごみステーション設置等、地域に目を向けた取り組みの検討を行う。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡を取り合う機会も多く、連携が取れている。	町は新たな介護サービス事業所として注目している。大震災では役場から要請された他地域施設の入所者受入れに応えたり、また、町から支援物資が届けられたり、相互の協力関係は築かれている。外部評価にも町の担当者が積極的に出席された。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で設置されている問題委員会の中で、身体拘束や虐待・各事業所の問題点に対し話し合いが行われ、会議の内容は復命やミーティングで、現場職員に周知され活かされている。	身体拘束に対する職員の認識作りは進められている。日中、玄関は施錠していないが、利用者の危険回避を優先に家族の了解の下に、玄関内扉は施錠している。外出傾向の人は把握しており、椅子の配置がえなどを行い改善された。今後、地域との関係作りの中から開錠等の検討を行う。	玄関内扉の施錠なしでも利用者の見守りが出来る仕組み作りを期待したい。併せて利用者も地域の一人として暮らしていける事を目指し、地域との連携を進め、認知症への理解促進等の取組みも期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどを通じて、職員間での話し合いがもたれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングなどを通じて、職員間での話し合いがもたれている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点を話しやすい雰囲気作りを心がけ、一つ一つにきちんと説明をしている。また、ご家族・ご利用者様と共に、解決出来る様な体制作りもしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様からは、日常の中からご要望を伺ったり、ご家族様からは面会時や電話の際に、意見や要望を伺っている。伺った意見は、職員間での話し合いの元、運営の改善に役立てている。	家族からの意見要望には真摯に受け止め対応している。本年7月の「開所2周年記念行事」では、家族会を開催し顔合わせを予定している。玄関ホールにご意見ノートや第三者委員を知らせる掲示物が用意してある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやアンケートなどを通じて、職員の意見を吸い上げている。また、個人毎に話す機会も設け、情報収集や意見交換も行っている。	管理者との面談で、職員の人生ビジョン、ケアの責任や利用者への関わり方などを聞き、施設運営の改善に活かしている。職員の意見により、サービスの質を高める目的で、接遇改善などの研修を3回シリーズで開催する。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握した上で、各自に役割を分担したり、ストレス緩和を行い、やりがいや向上心を持って頂ける様な環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握した上で、外部研修等に参加する機会を促している。また、日常の中でトレーニングしていく機会を設ける様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で月に数回会議を設け、各事業所の職員と交流する機会を持ち、情報交換に努めている。また、各事業所を訪問する機会を持ち、情報交換等も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等の訴えに耳を傾けながら、日常生活を観察し、ご自分で出来る事と介助が必要な事を見極めている。また、要望等を話しやすい環境を作れる様、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の契約時に、ご家族の要望等を吸い上げ、ご家族と共に、解決出来る様な体制作りをしている。また、入居後の面会時や電話、手紙等でご利用者様のご様子をお知らせしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や状態を把握し、必要なサービスが提供出来る様、ご利用者様やご家族様と話し合い行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや出来る事を尊重し、今までと変わらない生活を送って頂ける様努めている。また、日頃からご利用者様との関わりを持つ機会を多くし、家庭的な雰囲気の中で過ごして頂ける様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当事業所には、家族部屋(2人部屋)を4室設置し、夫婦や家族の絆を大切に、いつまでも一緒に過ごせる様な体制を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会や外出、外泊が出来る様になっている。	面会は殆どが家族であり、家族との関係が疎遠にならないように、外出、外泊への支援を行っている。病院への付き添いは家族に行ってもらっている。馴染みの店への買い物など利用者から要望があれば、職員が同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で、共同で物事を行う機会も多く、常にご利用者同士で談話されている。また、介助が必要な方に対して、自ら手を差し伸べ援助する場面も多く見受けられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、関係性は崩れる事無く、時折家族と連絡を取り合うこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、ご入居者様の生活歴についてご家族様に作成してもらって他、情報収集も行っている。また、必要時はご家族へ対応方法などを尋ね、本人の意向把握に努めたり、興味の示す物の検討をしている。	一人ひとり利用者の目線に合わせ利用者寄り添った支援を行っている。意思表示が困難な人から発信される身振り手振りにより職員は希望や意向を把握しており、利用者それぞれとのコミュニケーションが取れるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり、家族や他事業所より情報を頂き、以前の生活歴やサービスの利用の背景等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを把握し、健康状態、異常の早期発見に努めている。また、その方の有する力を理解し、負担軽減や精神状態を観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や医療機関との連携を密にし、状態に沿ったプランを作成している。また、本人の思いや訴えをプランに反映し作成している。	家族やかかりつけ医の意見の反映したケアプラン作成と毎月のモニタリングを実施し、状況は家族にも伝えている。プラン見直しも3ヶ月毎に実施している。利用者一人ひとりの様子については、打合せ等で職員同士の共有を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月、モニタリングをし、ケアの気付きや結果等の見直しを行っている。その際には、利用者様から出た意見や情報も集めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急に受診する際には、迅速に医療機関へ連絡を取り受診対応している。また、行事で色々な場所へ訪問する機会を設け、外部と交流出来る機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	暖かい時期は、近所を散歩したり、施設周辺の草取りや落ち葉掃きをしたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医に受診出来る様、配慮されている。通院介助は基本的には家族対応だが、対応出来ない時は職員が行っている。結果は、随時電話等で連絡をしている。	かかりつけ医との連携を密にし、必要に応じた受診ができるように関係を保っている。急を要する事態に対応してもらう協力医院との連携も図っている。歯科治療は訪問歯科でも対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職員が居ない為、協力医療機関との連携が中心となっている。又、常にご利用者様の健康状態を把握し、緊急時には迅速に対応出来る様、ご家族様・職員間で連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中や退院される前に、看護師や生活相談員と連絡を取り、ご入居者様の健康状態の把握に努めている。また、入居相談等の情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、段階的に家族や医師と話し合いをし、方針を統一していく意向である。(現在は対象者が居ない)	現在、重度化や終末期の利用者はいない。今後、重度化や終末期のあり方と支援について、法人グループ施設の取り組み事例などを参考に、体制構築に向けた取り組みを進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、最低限の知識や技術を学べる様、ミーティング等で情報を共有をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	対応マニュアルを作成し、避難訓練を実施している。地域の協力体制が不十分なので、今年度は実施したい。	避難訓練は実施している。特に2階建てのため今回の震災を教訓にマニュアルの見直しを進めている。災害用備蓄品の検討や非常災害用専用回線の設置を具体化する。今年度は夜間想定避難訓練を2回予定している。	夜間想定避難訓練の実施に向け、マニュアルの見直しや地域の理解協力が得られるよう働きかけを進め、この機会を利用し地域の施設と認められるよう、さらなる取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や生活歴を尊重し、お一人お一人に合った話し方や接し方、対応を心がけている。	一人ひとりの尊厳を念頭に、一定の距離と利用者目線での接遇を心がけている。震災被災者もいることから、話の内容にも気遣いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつでも思いや要望を表せられる様、常にご利用者様の訴えに耳を傾けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを把握し、無理のない様ゆったりとした雰囲気でも過ごしてもらえる様心がけている。希望や訴えを受け入れ、満足出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にはご自分で衣類を決めて着用して頂いている。身だしなみも、出来る部分をご自分でして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限りご自分で食事して頂ける様、箸やスプーン・食器などを、ご本人の状態に合わせて提供している。	食事の準備や後片付けなど利用者と一緒に、和やかな雰囲気でも食事を楽しんでいる。食事メニューは職員がバランスを考えて作成し先輩職員がチェックをしている。今後は、法人介護事業所の栄養士に指導してもらうことを検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状態に合わせた食事を提供し、こまめに水分補給も行っている。水分摂取量の記録管理も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。出来る方でも、磨き残しが無いか、見守りも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々排泄チェックを行い、ご本人の排泄のパターンや習慣を把握した上で、個別誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。	利用者毎に排泄チェックを行い健康管理に役立てている。センナ茶などを提供し、快便につながる支援をしている。各部屋のトイレを使用した場合も、本人に確認の上状況を把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食べ物を摂取出来る様献立に組み込んだり、センナ茶やバナナ牛乳を提供し、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には本人の意思を尊重し、入浴時間を決めている。しかし、意思決定が困難な場合もある為、ご本人の健康状態を考慮し順番を決めている。	利用者の希望に沿った支援をしている。入浴拒否があった場合、無理強いをせずに気長に説得をしている。粗相などがあった場合は、部屋のシャワーで対処することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活リズムを把握し、いつでも休める様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期処方の際、前回の薬と変化が無いかを確認した上で、薬の目的や副作用について理解している。服薬の際には、名前や日付を確認し、服薬支援している。また、飲み終えるまで見守りも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や盛り付け、食器の後片付け、掃除が出来る方には、毎日役割分担をし、職員と一緒に頂いている。また、四季の行事や誕生会などを企画し、楽しみごとが持てる様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	業務の都合で希望に添えない時もあるが、馴染みの店へ買い物に行く際は、外出可能な方と共に出かけている。また、ご家族の協力の元、外出の機会を設けられる様支援している。	昨年秋には、利用者と一緒に「なし狩り」を行った。日々の外出では、散歩や近隣のスーパーに同行支援をするとともに、地域の認知を高める取り組みも進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されている方は限られているが、希望時に買い物に出かけられる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りも気兼ねなく出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に一番長い時間を過ごす、食堂兼リビングスペースは、季節感のある飾り付けや皆さんの作品を飾り、家庭的な雰囲気作りをしている。	日中は、食堂兼リビングに殆どの利用者が集って、穏やかに過ごしている。テーブルや調度品には花が飾られており和やかな雰囲気が醸し出されている。部屋には利用者に判り易い大きな手作り暦、ベランダにはプランターがあり、花や野菜の栽培が楽しめるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間で独りになれる場所は少ないが、気の合った方々が過ごしやすい様、ソファや椅子を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、使い慣れた物や馴染みのある物をお持ち頂く様、ご家族へ声をかけている。	各居室はバスタイレ洗面所等水周りの他、エアコンが設置されている。入居時には今まで使い慣れた物も持参してもらい、穏やかな生活の確保の支援をしている。部屋の掃除は、利用者と職員が一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	慣れて来ると場所の把握も出来、出来る事が増えて来ている。今後も、使い易く、安全に考慮した環境作りに努めていきたい。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492700018
法人名	(株)ジェイバック
事業所名	もも太郎さん(大郷)
所在地	宮城県黒川郡大郷町中村字原町10-5
自己評価作成日	平成23年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台3階
訪問調査日	平成23年6月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内中央の広いリビングスペースが、入居者様の語り合いや交流のスペースになっており、温かい雰囲気の中で、笑顔や笑い声の絶えない空間になっています。一日の大半を共同スペースで過ごす方が殆どの為、常に楽しい雰囲気作りに力を入れています。また、プライバシーが厳守される居室には、トイレ・浴室・クローゼット・テレビ等が標準装備されています。気兼ねなくトイレが使えたり、夜間のトイレ誘導にも活用する事が出来る為、排泄の自立支援にも役立っています。また、常にご利用者様のご要望に耳を傾け、ご本人の意思に沿えます様、職員が一丸となって支援しています。薬に頼り過ぎない代替ケアを実践し、色々な方々の回復を拝見して参りました。お一人お一人を支える一番近い存在であります様、日々邁進出来る施設であり続けたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成21年7月1日開設。高齢化と過疎化が進む大郷町に町民や行政も注目する初めてのグループホームである。施設は敷地の都合からか、L字型の2階建。居室は全てバストイレを配備し我が家をイメージしプライバシーを意識した造りである。建物の中央に配置されたりリビングには利用者が思い思いに寛ぎ和やかに過ごしている。理念で掲げている「自由に生きる！家族の絆！」が映し出されている印象であった。
管理者がこの5月に着任し、施設運営の向上とサービスの質の向上を課題に、地域との関係作りや利用者や職員が笑顔で生活できる取り組みを進めている。今後更なる改善を進め、地域福祉の拠点的役割を担う施設になることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 もも太郎さん〔大郷〕「ユニット名 2階」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体で共通の理念を掲げ、ミーティング等で常に確認し合い、意識付けをしながら実践を行っている。しかし、事業所単独の理念を掲げていない為、今年度は実施したい。	法人理念として「あなたの笑顔は私の鏡」が施設内に掲げられている。ユニット毎の理念は職員会議で検討が進められ、利用者と一緒に笑って暮らし、一人ひとり利用者の尊厳を大切にすることをキーワードに検討されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と日常的にあまり交流が出来なかった為、今年度は実施したい。	町主催の敬老会に参加し、地域の方々との交流がされている。地域との関係作りは途上であることから、窓やカーテンを開放し、地域の方々への声かけを積極的に行っている。また、運営推進会議や2周年記念行事への参加を呼びかけ、交流促進に取りかかっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方へ援助する機会があったが、今後は運営推進会議や地域行事を通じて、地域の方々へ活かしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度は感染症の流行もあり、定期的な会議の実施が出来ず、意見をあまり活かせなかったため、今年度は実施したい。	今年度は6回開催を予定している。第1回は6月25日、区長、民生委員、第三者委員、行政、家族に参加を依頼している。検討テーマは、地域行事やクリーン活動への参加、ごみステーション設置等、地域に目を向けた取り組みの検討を行う。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡を取り合う機会も多く、連携が取れている。	町は新たな介護サービス事業所として注目している。大震災では役場から要請された他地域施設の入所者受入れに応えたり、また、町から支援物資が届けられたり、相互の協力関係は築かれている。外部評価にも町の担当者が積極的に出席された。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で設置されている問題委員会の中で、身体拘束や虐待・各事業所の問題点に対し話し合いが行われ、会議の内容は復命やミーティングで、現場職員に周知され活かされている。	身体拘束に対する職員の認識作りは進められている。日中、玄関は施錠していないが、利用者の危険回避を優先に家族の了解の下に、玄関内扉は施錠している。外出傾向の人は把握しており、椅子の配置がえなどを行い改善された。今後、地域との関係作りの中から開錠等の検討を行う。	玄関内扉の施錠なしでも利用者の見守りが出来る仕組み作りを期待したい。併せて利用者も地域の一員として暮らしていける事を目指し、地域との連携を進め、認知症への理解促進等の取組みも期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどを通じて、職員間での話し合いがもたれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングなどを通じて、職員間での話し合いがもたれている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点を話しやすい雰囲気作りを心がけ、一つ一つにきちんと説明をしている。また、ご家族・ご利用者様と共に、解決出来る様な体制作りもしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様からは、日常の中からご要望を伺ったり、ご家族様からは面会時や電話の際に、意見や要望を伺っている。伺った意見は、職員間での話し合いの元、運営の改善に役立てている。	家族からの意見要望には真摯に受け止め対応している。本年7月の「開所2周年記念行事」では、家族会を開催し顔合わせを予定している。玄関ホールにご意見ノートや第三者委員を知らせる掲示物が用意してある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやアンケートなどを通じて、職員の意見を吸い上げている。また、個人毎に話す機会も設け、情報収集や意見交換も行っている。	管理者との面談で、職員の人生ビジョン、ケアの責任や利用者への関わり方などを聞き、施設運営の改善に活かしている。職員の意見により、サービスの質を高める目的で、接遇改善などの研修を3回シリーズで開催する。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握した上で、各自に役割を分担したり、ストレス緩和を行い、やりがいや向上心を持って頂ける様な環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握した上で、外部研修等に参加する機会を促している。また、日常の中でトレーニングしていく機会を設ける様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で月に数回会議を設け、各事業所の職員と交流する機会を持ち、情報交換に努めている。また、各事業所を訪問する機会を持ち、情報交換等も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等の訴えに耳を傾けながら、日常生活を観察し、ご自分で出来る事と介助が必要な事を見極めている。また、要望等を話しやすい環境を作れる様、信頼関係作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の契約時に、ご家族の要望等を吸い上げ、ご家族と共に、解決出来る様な体制作りをしている。また、入居後の面会時や電話、手紙等でご利用者様のご様子をお知らせしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や状態を把握し、必要なサービスが提供出来る様、ご利用者様やご家族様と話し合い行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや出来る事を尊重し、今までと変わらない生活を送って頂ける様努めている。また、日頃からご利用者様との関わりを持つ機会を多くし、家庭的な雰囲気の中で過ごして頂ける様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当事業所には、家族部屋(2人部屋)を4室設置し、夫婦や家族の絆を大切に、いつまでも一緒に過ごせる様な体制を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会や外出、外泊が出来る様になっている。	面会は殆どが家族であり、家族との関係が疎遠にならないように、外出、外泊への支援を行っている。病院への付き添いは家族に行ってもらっている。馴染みの店への買い物など利用者から要望があれば、職員が同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で、共同で物事を行う機会も多く、常にご利用者様同士で談話されている。また、介助が必要な方に対して、自ら手を差し伸べ援助する場面も多く見受けられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、関係性は崩れる事無く、時折家族と連絡を取り合うこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、ご入居者様の生活歴についてご家族様に作成してもらった他、情報収集も行っている。また、必要時はご家族へ対応方法などを尋ね、本人の意向把握に努めたり、興味の示す物の検討をしている。	一人ひとり利用者の目線に合わせて利用者寄り添った支援を行っている。意思表示が困難な人から発信される身振り手振りにより職員は希望や意向を把握しており、利用者それぞれとのコミュニケーションが取れるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり、家族や他事業所より情報を頂き、以前の生活歴やサービスの利用の背景等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを把握し、健康状態、異常の早期発見に努めている。また、その方の有する力を理解し、負担軽減や精神状態を観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や医療機関との連携を密にし、状態に沿ったプランを作成している。また、本人の思いや訴えをプランに反映し作成している。	家族やかかりつけ医の意見の反映したケアプラン作成と毎月のモニタリングを実施し、状況は家族にも伝えている。プラン見直しも3ヶ月毎に実施している。利用者一人ひとりの様子については、打合せ等で職員同士の共有を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月、モニタリングをし、ケアの気づきや結果等の見直しを行っている。その際には、利用者様から出た意見や情報も集めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急に受診する際には、迅速に医療機関へ連絡を取り受診対応している。また、行事で色々な場所へ訪問する機会を設け、外部と交流出来る機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	暖かい時期は、近所を散歩したり、施設周辺の草取りや落ち葉掃きをしたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医に受診出来る様、配慮されている。通院介助は基本的には家族対応だが、対応出来ない時は職員が行っている。結果は、随時電話等で連絡をしている。	かかりつけ医との連携を密にし、必要に応じた受診ができるように関係を保っている。急を要する事態に対応してもらい協力病院との連携も図っている。歯科治療は訪問歯科でも対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職員が居ない為、協力医療機関との連携が中心となっている。又、常にご利用者様の健康状態を把握し、緊急時には迅速に対応出来る様、ご家族様・職員間で連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中や退院される前に、看護師や生活相談員と連絡を取り、ご入居者様の健康状態の把握に努めている。また、入居相談等の情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、段階的に家族や医師と話し合いをし、方針を統一していく意向である。(現在は対象者が居ない)	現在、重度化や終末期の利用者はいない。今後、重度化や終末期のあり方と支援について、法人グループ施設の取り組み事例などを参考に、体制構築に向けた取り組みを進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、最低限の知識や技術を学べる様、ミーティング等で情報を共有をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	対応マニュアルを作成し、避難訓練を実施している。地域の協力体制が不十分なので、今年度は実施したい。	避難訓練は実施している。特に2階建てのため今回の震災を教訓にマニュアルの見直しを進めている。災害用備蓄品の検討や非常災害用専用回線の設置を具体化する。今年度は夜間想定避難訓練を2回予定している。	夜間想定避難訓練の実施に向け、マニュアルの見直しや地域の理解協力が得られるよう働きかけを進め、この機会を利用し地域の施設と認められるよう、さらなる取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や生活歴を尊重し、お一人お一人に合った話し方や接し方、対応を心がけている。	一人ひとりの尊厳を念頭に、一定の距離と利用者目線での接遇を心がけている。震災被災者もいることから、話の内容にも気遣いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつでも思いや要望を表せられる様、常にご利用者様の訴えに耳を傾けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを把握し、無理のない様ゆったりとした雰囲気でも過ごしてもらえる様心がけている。希望や訴えを受け入れ、満足出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にはご自分で衣類を決めて着用して頂いている。身だしなみも、出来る部分をご自分でして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限りご自分で食事して頂ける様、箸やスプーン・食器などを、ご本人の状態に合わせて提供している。	食事の準備や後片付けなど利用者と一緒に、和やかな雰囲気でも食事を楽しんでいる。食事メニューは職員がバランスを考えて作成し先輩職員がチェックをしている。今後は、法人介護事業所の栄養士に指導してもらおうことを検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状態に合わせた食事を提供し、こまめに水分補給も行っている。水分摂取量の記録管理も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。出来る方でも、磨き残しが無いか、見守りも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々排泄チェックを行い、ご本人の排泄のパターンや習慣を把握した上で、個別誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。	利用者毎に排泄チェックを行い健康管理に役立てている。センナ茶などを提供し、快便につながる支援をしている。各部屋のトイレを使用した場合も、本人に確認の上状況を把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食べ物を摂取出来る様献立に組み込んだり、センナ茶やバナナ牛乳を提供し、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には本人の意思を尊重し、入浴時間を決めていく。しかし、意思決定が困難な場合もある為、ご本人の健康状態を考慮し順番を決めている。	利用者の希望に沿った支援をしている。入浴拒否があった場合、無理強いをせずに気長に説得をしている。粗相などがあった場合は、部屋のシャワーで対処することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活リズムを把握し、いつでも休める様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期処方の際、前回の薬と変化が無いかを確認した上で、薬の目的や副作用について理解している。服薬の際には、名前や日付を確認し、服薬支援している。また、飲み終えるまで見守りも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や盛り付け、食器の後片付け、掃除が出来る方には、毎日役割分担をし、職員と一緒に頂いている。また、四季の行事や誕生会などを企画し、楽しみごとが持てる様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	業務の都合で希望に添えない時もあるが、馴染みの店へ買い物に行く際は、外出可能な方と共に出かけている。また、ご家族の協力の元、外出の機会を設けられる様支援している。	昨年秋には、利用者と一緒に「なし狩り」を行った。日々の外出では、散歩や近隣のスーパーに同行支援をするとともに、地域の認知を高める取り組みも進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されている方は限られているが、希望時に買い物に出かけられる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りも気兼ねなく出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に一番長い時間を過ごす、食堂兼リビングスペースは、季節感のある飾り付けや皆さんの作品を飾り、家庭的な雰囲気作りをしている。	日中は、食堂兼リビングに殆どの利用者が集って、穏やかに過ごしている。テーブルや調度品には花が飾られており和やかな雰囲気が醸し出されている。部屋には利用者に判り易い大きな手作り暦、ベランダにはプランターがあり、花や野菜の栽培が楽しめるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間で独りになれる場所は少ないが、気の合った方々が過ごしやすい様、ソファや椅子を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、使い慣れた物や馴染みのある物をお持ち頂く様、ご家族へ声をかけている。	各居室はバスタイレ洗面所等水周りの他、エアコンが設置されている。入居時には今まで使い慣れた物も持参してもらい、穏やかな生活の確保の支援をしている。部屋の掃除は、利用者職員が一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	慣れて来ると場所の把握も出来、出来る事が増えて来ている。今後も、使い易く、安全に考慮した環境作りに努めていきたい。		